

検討テーマ3：国土利用の再編、美しい国土づくりの在り方(その1)

～ 国土利用の再編を中心に～

現時点での基本的な認識と主な論点

1. 本テーマに係る現時点での基本的な認識

- (1) 今後の国土利用を取り巻く最大の環境変化は、人口動向が増加から減少局面に移行する点にある。これを国土利用の観点から考えると、人口減少に対して特段の措置を講じなければ、我が国全体に低未利用地が虫食いの増大することも懸念されるが、一方、従来土地利用の転換圧力が軽減し、国土空間に余裕が生じ、国土利用を望ましい姿に誘導していく好機ととらえることもできる。
- (2) このため、土地利用の秩序ある集約化を図るとともに、余裕の生じた国土空間を有効に活用し、土地利用を通じて、国土の安全性、持続可能性、美しさの向上を促進していくことが極めて重要になり、ここに今後の国土利用を考える最大のポイントがあるのではないかと考える。
- (3) 土地利用の秩序ある集約化と余裕空間の有効活用としては、防災上好ましくない地域からの撤退（例：浸水常襲地域、急傾斜地等）、望ましい水準より過度に狭小になっている土地区画の拡大（例：一戸当たり宅地面積、都市内オープンスペース等）、郊外部の無秩序な土地利用の防止と秩序ある集約化（例：都市のコンパクト化と余剰空間における自然再生）が考えられるのではないかと考える。
特に、郊外部の無秩序な土地利用の防止と秩序ある集約化を如何に進めるかは、今後の大きな課題ではないかと考える。
- (4) また、国土全体の土地利用のバランスについても再検討が必要ではないかと考える。
例えば、これまでは開発圧力の下で減少傾向にあった森林や農用地について、環境問題への対応、食料等の安定的な供給、自然循環機能の増進等の観点から実現可能な範囲で、規模の増大を図るといった観点もあるのではないかと考える。

さらに、非常時への対応という観点から、通常は別の用途に使用していても非常時に容易に避難地や食料生産地に活用し得るような土地利用、いわば「土地利用の多重性」についても今後検討する価値があるのではないか。

2. 主な論点

論点1：国土利用の大きな転換点・ポイント

今後の国土利用を考えるに当たっての大きな転換点・ポイントに関する認識として、前記1.(1)及び(2)は妥当か。他に重要な観点はあるか。

論点2：土地利用の秩序ある集約化と余裕空間の有効活用のイメージ

土地利用の秩序ある集約化と余裕空間の有効活用のイメージに関する前記1.(3)の認識は妥当か。また、こういう方向で施策を進めるとしたら、どのような点に特に留意すべきか。

防災上好ましくない地域からの撤退

例：浸水常襲地域、急傾斜地等

望ましい水準より過度に狭小になっている土地区画の拡大

例：一人当たり宅地面積、都市内オープンスペース等

郊外部の無秩序な土地利用の防止と秩序ある集約化

例：都市のコンパクト化と余剰空間における自然再生

【参 考：美しい国土づくり】

国土の美しさに関しては従来、都市景観を中心に、建築物規制等ミクロな施策が多くを占めていたが、国土計画として、国土全体の美しさをマクロに論ずるに当たっては、どういう観点が重要か。水と緑に代表される我が国の自然環境の質・量の充実、秩序ある土地利用の実現という観点が重要ではないかと考えるが、こうした考え方は妥当か。また、定量的に指標化することは可能か。